

Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

1 水陸稲（子実用）

(1) 水稲

令和6年産水稲（子実用）の作付面積は135万9,000ha（前年産に比べ1万5,000ha（1%）増加）となった（表5）。

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図4）。

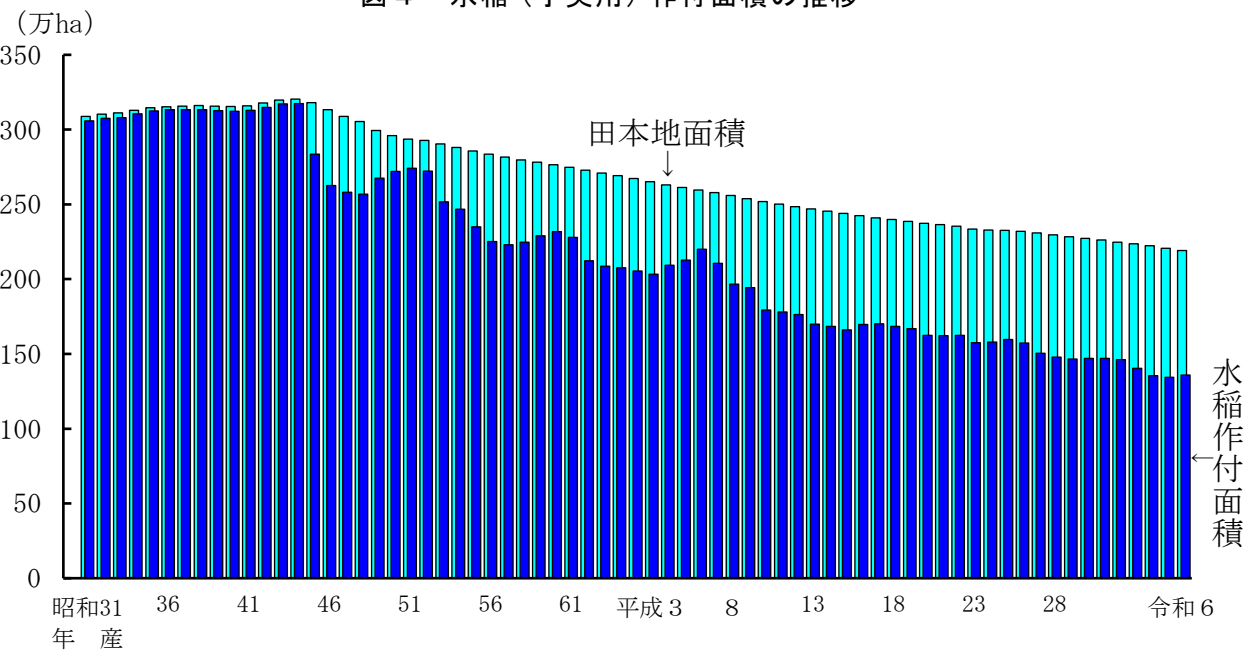
(2) 陸稲

令和6年産陸稲（子実用）の作付面積は320ha（前年産に比べ81ha（20%）減少）となった（表5）。

表5 令和6年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,359,000	14,000	101	1,359,000	15,000	101	320 △	81	80
北 海 道	…	nc	nc	95,000	1,700	102	…	nc	nc
都 府 県	…	nc	nc	1,264,000	13,000	101	…	nc	nc
東 北	…	nc	nc	358,400	9,300	103	…	nc	nc
北 陸	…	nc	nc	197,000 △	700	100	…	nc	nc
関 東・東 山	…	nc	nc	248,000	8,500	104	…	nc	nc
東 海	…	nc	nc	86,600 △	200	100	…	nc	nc
近 畿	…	nc	nc	94,000 △	700	99	…	nc	nc
中 国	…	nc	nc	93,100 △	900	99	…	nc	nc
四 国	…	nc	nc	42,700 △	400	99	…	nc	nc
九 州	…	nc	nc	143,700 △	1,600	99	…	nc	nc
沖 縄	…	nc	nc	599	23	104	…	nc	nc

図4 水稲（子実用）作付面積の推移



2 麦類（子実用）

(1) 小麦（子実用）

令和6年産小麦（子実用）の作付面積は23万1,800ha（前年産並み）となった。

このうち、北海道は13万2,000ha（前年産並み）となった。

また、都府県は9万9,800ha（前年産並み）となった（表6）。

(2) 二条大麦（子実用）

令和6年産二条大麦（子実用）の作付面積は4万100ha（前年産に比べ1,200ha（3%）増加）となった（表6）。

(3) 六条大麦（子実用）

令和6年産六条大麦（子実用）の作付面積は1万9,500ha（前年産に比べ100ha（1%）減少）となった（表6）。

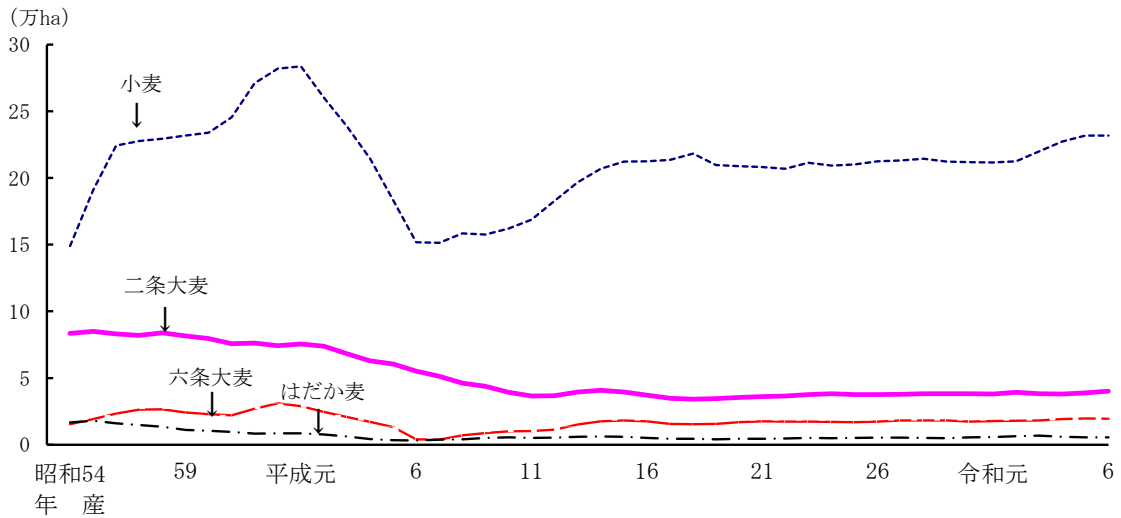
(4) はだか麦（子実用）

令和6年産はだか麦（子実用）の作付面積は5,430ha（前年産に比べ90ha（2%）減少）となった（表6）。

表6 令和6年産麦類（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	小 麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	231,800	100	100	40,100	1,200	103	19,500	△100	99	5,430	△ 90	98
北 海 道	132,000	△300	100	1,680	△ 30	98	20	6	143	55	△ 14	80
都 府 県	99,800	300	100	38,400	1,200	103	19,500	△100	99	5,370	△ 80	99
東 北	6,810	80	101	47	△ 5	90	1,660	30	102	x	x	x
北 陸	607	77	115	2	0	100	10,700	0	100	x	x	x
関東・東山	21,400	0	100	11,800	△ 200	98	4,450	△140	97	342	x	x
東 海	18,000	300	102	x	x	x	x	x	x	x	x	x
近 畿	9,200	280	103	145	△ 5	97	2,090	20	101	x	x	x
中 国	3,200	70	102	3,240	50	102	x	x	x	535	△ 40	93
四 国	3,000	△110	96	x	x	x	x	x	x	2,440	190	108
九 州	37,600	△300	99	23,000	1,300	106	55	7	115	1,750	△170	91
沖 縄	10	2	125	3	△ 3	50	-	-	nc	-	-	nc

図5 麦類（子実用）作付面積の推移



3 かんしょ

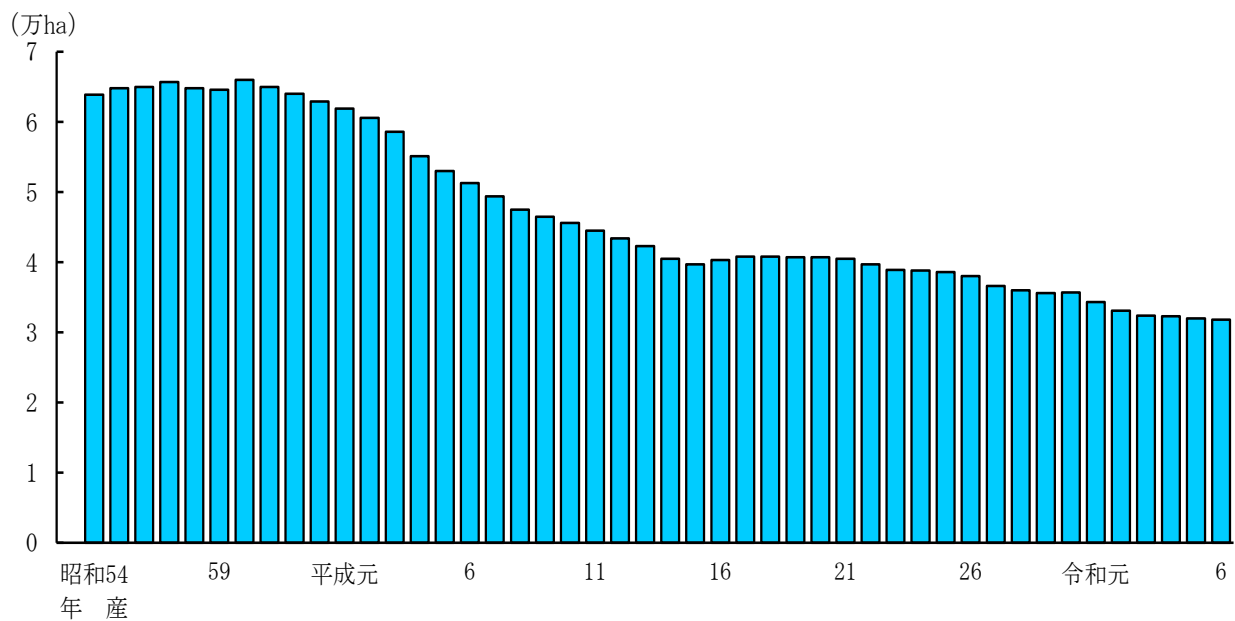
令和6年産かんしょの作付面積は3万1,800ha（前年産に比べ200ha（1％）減少）となった（表7）。

作付面積の動向をみると、昭和60年以降は減少傾向で推移している（図6）。

表7 令和6年産かんしょ作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
か ん し ょ	31,800	△ 200	99	2,240	20	101	29,500	△ 300	99

図6 かんしょ作付面積の推移



4 そば（乾燥子実）

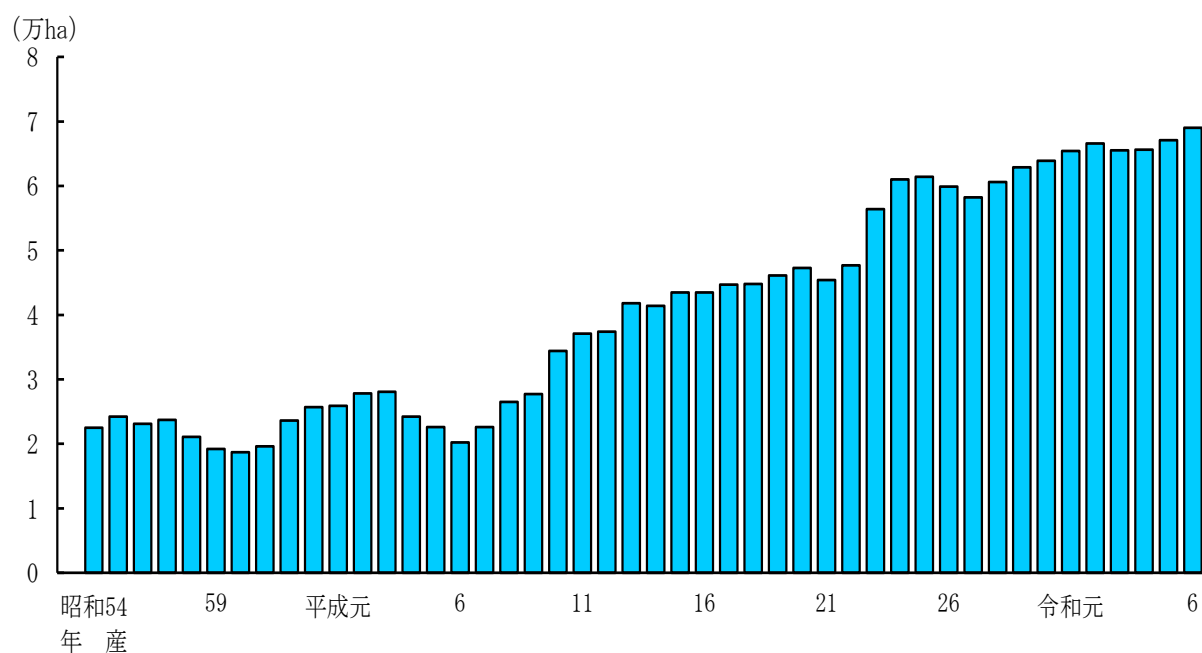
令和6年産そば（乾燥子実）の作付面積は6万9,000ha（前年産に比べ1,900ha（3%）増加）となった（表8）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少した。平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している（図7）。

表8 令和6年産そば（乾燥子実）作付面積（田畑別・全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	69,000	1,900	103	39,500	100	100	29,500	1,700	106
北 海 道	26,100	1,200	105	9,390	40	100	16,700	1,200	108
都 府 県	43,000	700	102	30,100	100	100	12,800	500	104
東 北	18,600	500	103	13,700	100	101	4,920	500	111
北 陸	5,980	210	104	5,480	250	105	501	△ 42	92
関 東・東山	12,800	100	101	6,710	△ 80	99	6,100	190	103
東 海	471	△ 55	90	407	△ 47	90	64	△ 8	89
近 畿	x	x	x	x	x	x	33	3	110
中 国	1,530	△ 20	99	1,310	△ 20	98	216	△ 2	99
四 国	93	△ 8	92	59	△ 3	95	34	△ 5	87
九 州	2,540	△ 80	97	1,590	△ 30	98	949	△ 51	95
沖 縄	28	7	133	-	-	nc	28	7	133

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



5 豆類（乾燥子実）

(1) 大豆（乾燥子実）

令和6年産大豆（乾燥子実）の作付面積は15万3,900ha（前年産に比べ800ha（1%）減少）となった（表9）。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移し、平成16年以降は上下動のある動きとなっている（図8）。

(2) 小豆（乾燥子実）

令和6年産小豆（乾燥子実）の作付面積は2万4,000ha（前年産に比べ800ha（3%）減少）となった（表9）。

主産地である北海道の作付面積は2万800ha（全国の約9割）（前年産並み）となった。

(3) いんげん（乾燥子実）

令和6年産いんげん（乾燥子実）の作付面積は5,650ha（前年産に比べ220ha（4%）減少）となった（表9）。

主産地である北海道の作付面積は5,270ha（全国の約9割）（前年産に比べ180ha（3%）減少）となった。

(4) らっかせい（乾燥子実）

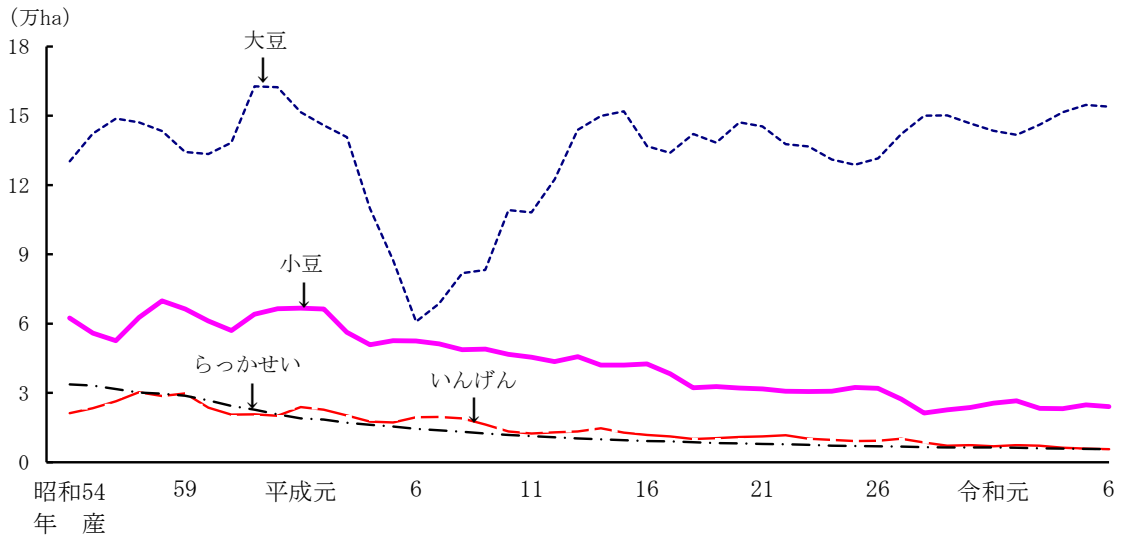
令和6年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積は5,560ha（前年産に比べ150ha（3%）減少）となった（表9）。

主産地である千葉県の前年産の作付面積は4,590ha（全国の約8割）（前年産に比べ90ha（2%）減少）となった。

表9 令和6年産豆類（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	大 豆			小 豆			い ん げ ん			ら っ か せ い		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	153,900	△ 800	99	24,000	△ 800	97	5,650	△ 220	96	5,560	△ 150	97
北 海 道	46,800	1,500	103	20,800	△ 100	100	5,270	△ 180	97	9	nc	nc
都 府 県	107,000	△ 2,300	98	3,140	nc	nc	384	nc	nc	5,550	nc	nc
東 北	37,800	△ 400	99	514	nc	nc	48	nc	nc	x	nc	nc
北 陸	12,300	△ 300	98	266	nc	nc	53	nc	nc	25	nc	nc
関 東・東 山	10,100	△ 400	96	460	nc	nc	278	nc	nc	5,240	nc	nc
東 海	12,000	△ 400	97	96	nc	nc	1	nc	nc	71	nc	nc
近 畿	10,100	0	100	1,020	nc	nc	-	nc	nc	12	nc	nc
中 国	4,180	△ 310	93	538	nc	nc	0	nc	nc	21	nc	nc
四 国	467	△ 7	99	48	nc	nc	4	nc	nc	11	nc	nc
九 州	20,200	△ 500	98	202	nc	nc	-	nc	nc	145	nc	nc
沖 縄	x	x	x	-	nc	nc	-	nc	nc	9	nc	nc

図 8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移



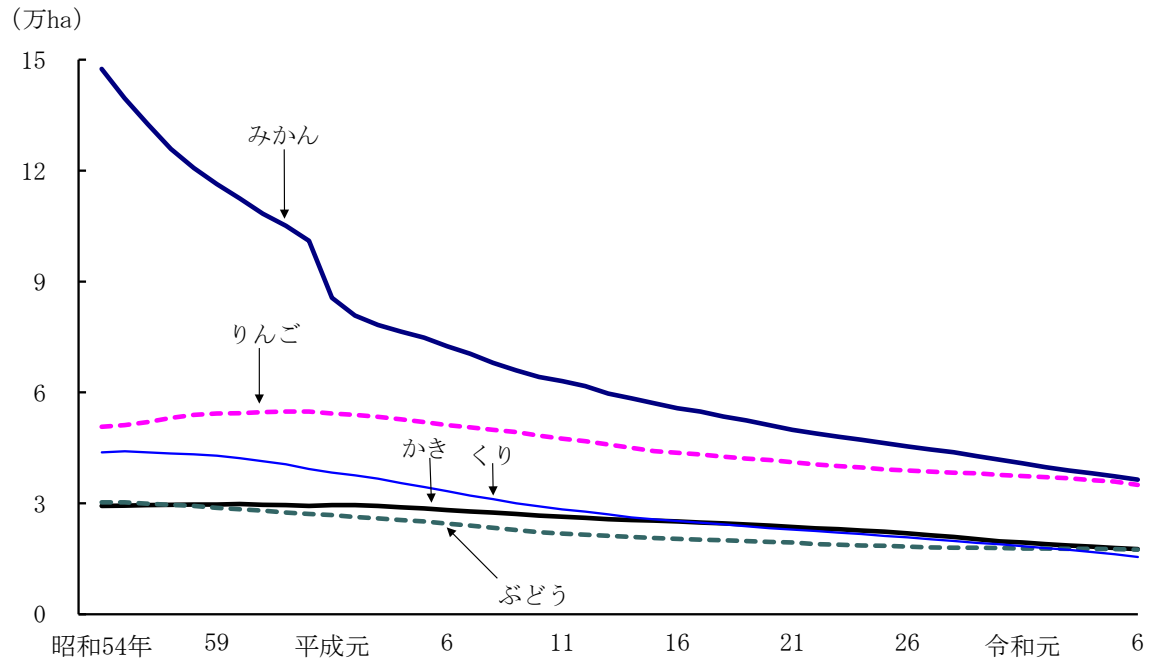
6 果樹

令和6年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは3万6,400ha（前年に比べ900ha（2％）減少）、りんごは3万5,000ha（同900ha（3％）減少）、かきは1万7,600ha（同300ha（2％）減少）、ぶどうは1万7,500ha（同100ha（1％）減少）、くりは1万5,500ha（同700ha（4％）減少）となった（表10）。

表 10 令和6年果樹栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較			区 分	栽培面積	前年との比較		
		対 差	対 比				対 差	対 比	
	ha	ha	%		ha	ha	%		
み か ん	36,400	△ 900	98	す も も	2,670	△ 70	97		
そ の 他 か ん き つ 類	23,300	△ 300	99	お う と う	4,320	△ 110	98		
り ん ご	35,000	△ 900	97	う め	13,500	△ 400	97		
日 本 な し	9,830	△ 270	97	ぶ ど う	17,500	△ 100	99		
西 洋 な し	1,350	△ 50	96	く り	15,500	△ 700	96		
か き	17,600	△ 300	98	パ イ ン ア ッ プ ル	621	29	105		
び わ	827	△ 35	96	キ ウ イ フ ル ー ツ	1,980	△ 40	98		
も も	9,900	△ 50	99						

図9 主要果樹栽培面積の推移



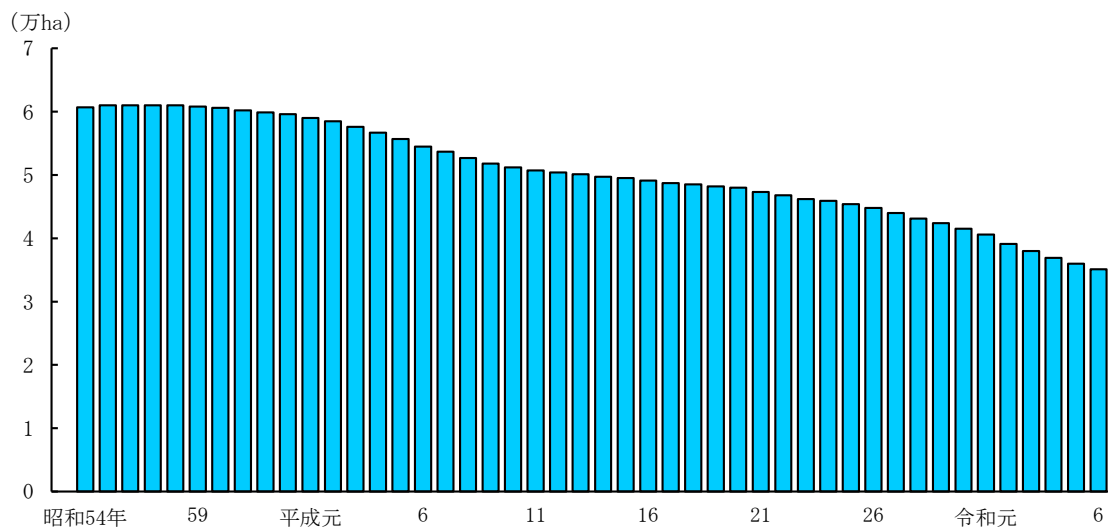
7 茶

令和6年茶の栽培面積は3万5,100ha（前年に比べ900ha（2%）減少）となった（表11）。栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している（図10）。

表11 令和6年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
茶	ha 35,100	ha △ 900	% 98

図10 茶栽培面積の推移



8 飼料作物、えん麦（緑肥用）

(1) 飼料作物

令和6年産飼料作物計の作付（栽培）面積は97万5,500ha（前年産に比べ4万2,500ha（4％）減少）となった（表12）。

ア 牧草

令和6年産牧草の作付（栽培）面積は69万5,500ha（前年産に比べ9,700ha（1％）減少）となった。

イ 青刈りとうもろこし

令和6年産青刈りとうもろこしの作付面積は9万6,500ha（前年産に比べ700ha（1％）減少）となった。

ウ ソルゴー

令和6年産ソルゴーの作付面積は1万1,000ha（前年産に比べ700ha（6％）減少）となった。

これは、他作物への転換等があったためである。

(2) えん麦（緑肥用）

令和6年産えん麦（緑肥用）の作付面積は2万9,900ha（前年産に比べ6,100ha（17％）減少）となった（表12）。

主産地である北海道の作付面積は2万8,000ha（前年産に比べ5,900ha（17％）減少）となった。これは、作付中止や他作物への転換があったためである。

表 12 令和6年産飼料作物、えん麦（緑肥用）作付（栽培）面積

区 分	作付（栽培） 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比
	ha	ha	%
飼 料 作 物 計	975,500	△ 42,500	96
うち 牧 草	695,500	△ 9,700	99
青刈りとうもろこし	96,500	△ 700	99
ソ ル ゴ ー	11,000	△ 700	94
え ん 麦 （ 緑 肥 用 ）	29,900	△ 6,100	83

注： 飼料作物計とは、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴーのほか、その他飼料作物（飼料用米等）を含めた合計である。

図 11 飼料作物作付（栽培）面積の推移

